

- 13) Matson, D.D.: Neurosurgery of Infancy and Childhood, Second edition, Charles C. Thomas Publisher, Springfield, Illinois, pp. 647, 1969.
- 14) Rand R.W.: Microneurosurgery, The C.V. Mosby Company, Saint Louis, pp. 210, 1969.
- 15) Tsuji, H., Yamanaka, T., Yamane, T. and Tamaki, T.: Recent advances of spinal cord surgery, Read at the 46th Annual Meeting of Japanese Orthopaedic Association, on June, 1973.
- 16) Yamanaka, T. and Tsuji, H.: A practical use of H-waves for spinal cord monitoring in anaesthetized patient undergoing spinal operations (in preparation).
- 17) Yasargil, M.G.: Microsurgery. Applied to neurosurgery, Georg Thieme Verlag, Stuttgart, Academic Press, New York and London, pp. 175, 1969.



日本脳神経外科学会事務局ニュース

学会のお知らせ

1975年の日本脳神経外科学会ならびにその関連学会の日程をお知らせします。

第34回日本脳神経外科学会

会 期 1975年 10 月 22 日 (水) - 24 日 (金)
 会 場 名古屋市公会堂 (名古屋)
 会 長 景山直樹 (名古屋大学教授)

第14回日本定位脳手術研究会

会 期 1975年10月21日 (火)
 会 場 名古屋観光ホテル (名古屋)
 会 長 景山直樹 (名古屋大学教授)

第17回日本小児神経学研究会総会

会 期 1975年 6 月 12 日 (木) - 13 日 (金)
 会 場 東京都厚生年金会館 (東京)
 会 長 鈴木昌樹 (東京大学小児科助教授)
 締 切 1975年 1 月 30 日 (必着)

第 4 回脳卒中の外科研究会

会 期 1975年 6 月 6 日 (金)
 会 場 全共連ビル (東京)
 座 長 川淵純一 (群馬大学教授)
 主 題 脳動静脈奇形一特に摘出困難なもの—
 (演題募集については追って連絡)

第3回日本小児神経外科研究会演題募集

会 期 昭和 50 年 6 月 14 日 (土) A. M. 9.00 - P. M. 6.00
 会 場 東京厚生年金会館
 〒160 新宿区番衆町 19 TEL (356) 1111
 新宿駅から徒歩15分
 主 題 第3回研究会は次のテーマに限定して演題を募集いたします。

「わが国における小児神経外科疾患の遠隔成績」
 ただし、遠隔成績は何年以上ということにとらわれず、一定期間経過して状況を判断できるものを含みます。また症例数の少ない場合は症例報告的のもので結構です。

現時点においてこれまでの成果をまとめておき、今後 5 年後 10 年後の指標とし、また外国における資料と対応させることも必要であろうと考えております。

抄 録 400 字詰原稿用紙 (B 5 版) 2 枚以内
 但し、演題、所属および発表者名 (演者○印を含む)

演題申し込み締切 昭和 50 年 2 月 28 日

抄録送り先 〒105 東京都港区西新橋3-25-8
 東京慈恵会医科大学脳神経外科学
 第3回日本小児神経外科研究会会長
 中村 紀夫

TEL 03-433-111

なお、昭和 50 年 6 月 12, 13 日同会場にて、日本小児神経研究会が行なわれます。

日本脳神経外科学会事務局ニュースは82頁へ続く



日本脳神経外科学会事務局ニュース

第33回日本脳神経外科学会総会

第33回日本脳神経外科学会総会は昭和49年10月23日より25日までの3日間、1,200名の会員が参加し新装なった仙台市民会館に於て開催された(会長 東北大学鈴木二郎教授)。多数の応募演題があったが、21名のプログラム委員の決定により一般演題175題を採択シンポジウム4主題及びパネルディスカッション2主題については1年前より2名づつの座長により準備が始められ、各座長の裁断によってシンポジスト、パネリスト37名、指定討論者32名が決定され、十分な準備のもとに華々しい討論が展開された。学術映画は10本上映され、又稀有症例として12題の学術展示が行なわれた。従って演題数は総計266題の多きに達した。特別講演としてDr. W. M. Loughheed (University of Toronto, Canada)が頭蓋外血管閉塞の外科を担当され、会員に多大の感銘を与え、会長講演としては脳動脈瘤の手術、特に脳血流一時遮断時間延長法の開発についてが発表された。その他早朝セミナーでは10題の受講者は講堂に満ち、早朝より熱気溢る討論が行なわれた。第2日目の早朝には内助の功を労らうLadies Programのエキスカッションが紅に燃ゆる蔵王山に出発し、帰着した所で500人参加の会員懇親会に合流した。この懇親会に於ては各クリニックの競演が熱を呼び、会員相互の懇親の実をもあげ得た事は特筆されるものであった。関連行事としては植物状態患者救済のための辻久子ヴァイオリン独奏会や対市民講演会も開かれ、地域住民に対する脳神経外科の知識向上にも大きな貢献がなされた。又、日中友好の高まりの中で中華医学会より会長宛第33回日本脳神経外科学会への祝電が届けられ、会長が開会の辞の中で朗読したことも極めて意義のあることであった。今後日中脳神経外科学の交流は益々盛んになることが期待される。

評議員会は10月23日の講演終了後直ちに行なわれた(259名出席、その他委任状提出者113名)。最初に物故会員に黙禱を捧げた後、会長から今次学術総会の概要、会員動向等につき報告、ついて時間の関係上、本年度で任期満了となる認定委員会委員の選挙が行なわれ、以下の20名が選出された。尚この20名は自動的に会員資格審査委員会をも構成する事が了承された。

□新認定医認定委員及び新会員資格審査委員

石井昌三、植木幸明、景山直樹、川淵純一、北村勝俊、喜多村孝一、佐野圭司、鈴木二郎、竹内一夫、中村紀夫、西村周郎、西本 詮、半田 肇、牧野博安、松角康彦、松本 悟、三輪哲郎、最上平太郎、森 和夫、森安信雄(敬称略)

その後引き続き庶務会計幹事佐野教授より、学会本部事務局の会計報告、厚生省救急医療研修についての昭和48年度実施概要、昭和49年度の計画概要についての説明があり、更にW. F. N. S. へのdelegate 2名を我国より選出する必要がある、鈴木、景山両教授が推薦され、了承された。尚我国よりは既に佐野、石井の両教授も投票権を有している。

次で第32回総会の会計報告が前会長北村教授により報告、承認された後、名古屋大学景山教授より次期会長挨拶があり、第34回総会は昭和50年10月22日より24日までの3日間、名古屋市公会堂で開催される旨の挨拶があった。次に次々期会長及び庶務会計幹事の選出にうつったが、今回は既に5名の役員候補選出委員が全評議員の投票により書面によって選出されており、その選挙立会人の岩手医大金谷教授よりその状況及び結果が紹介され、石井昌三、北村勝俊、佐野圭司、鈴木二郎、半田肇の5教授が選出された事が発表された。尚会長より役員候補選出委員会は10月22日午後に行なわれ、庶務、会計幹事には東京大学佐野圭司教授、次々期会長としては群馬大学川淵純一教授が全員一致で推薦された事が報告され、この推薦に対し評議員会では特に他の候補者の推薦はなく、評議員会としてはこの2名を推薦する事が了承された。次に各種委員会の報告にうつり、昨年度発足した会員資格審査委員会の第1回目の会合が昭和49年8月3日都市センターで行なわれ、委員長には森安信雄教授が互選された事が報告された。先づ新入会員49名は全員審査に合格した事、新認定医59名は全員新評議員として登録された事が報告され、長い間学会に貢献のあった下記の13名の先生を特別会員として推薦するという案も了承された。尚、細則上特別会員よりは会費2,000円を徴収する事になっていたが、特別会員よりの会費は徴収しない様にしてはどうかという細則変更の案が出され、満場一致で可決された。

□特別会員

相沢豊三, 井街 譲, 稲本 晃, 卜部美代志, 岡本道雄, 木村忠司, 小池上春芳, 所 安夫, 永井一夫, 野口好之, 伴 忠康, 平沢 興, 小川鼎三 (敬称略)

次に会長として学会に貢献された田中憲二, 陣内伝之助, 近藤駿四郎の3先生が名誉会員として推薦され了承された。

その他旧評議員で認定医ではない 12 名の現役の先生方には引きつづき評議員を御願いする事も了承された。

認定委員会に関する報告は石井委員長により行なわれ本年度の新認定医は 59 名で現在総数 574 名である事が報告された。そして来年度は昭和 43 年度インターン制度廃止に伴う審査希望者の急増が予想されるため, 昭和 50 年 2 月 8, 9, 10 日の 3 日間, 臨時的認定会を行なう予定である事が報告され, この細則の変更が了承された。次に機関誌編集委員会に就ては委員長の鈴木二郎教授から現在まで小委員会は 2 回開催され, 又, その後の文書の往復によって以下の事が了承されていることが報告された。即ち学会機関誌は *Nerologia medicochirurgica* (NMC) であること, 学術集会での和文抄録の掲載を脳神経外科等の商業誌が拒否しているために会員数が 2,500 人を越した本学会に和文機関誌或は準機関誌が全くなり, 本学会発展に支障を来しているの, 新しく NMC の和文機関誌を発行しこれを Harvey Cushing Society における *Journal of Neurosurgery* と同様に会員に買ってもらう方法によって財政面をカバーし逐次充実させていく事, この機関誌の編集長を順天堂大学石井教授にお願いしたいこと, NMC 英文号は今まで通り少なくとも年 1 回発行するが原著を主とし, 英文抄録は掲載せず発表演題名, 所属及び演者名だけを英文でのせる事, 当分の間和文抄録は学会開催時における新しい Data に基づいて作製し学会後に発行していく事, 以上の 2 冊は学会の責任で出版する事が報告され承認された。新和文機関誌に関しては石井教授よりコメントがあり, 機関誌は学会員の意志が十分に反映されたものでなければならない事, 又本誌発足の重要な条件に Harvey Cushing Society における *J. Neurosurgery* と同様に, 日本脳神経外科学会で発表された演題に関してはその機関誌が first priority をもつ事が守られなければならない等の意見が出された。

以上の如き機関誌の充実, 変化にもとづいてプログラム委員は学会終了後も 1 年間, 運営委員と共に機関誌編集委員として機関誌の発行に努める事も了承された。

関係諸学会連絡委員会に関しては植木委員長よりその目的を検討の上, 日本神経学会, 日本小児神経学研究会, 日本神経病理学会, 学術会議脳研究連絡委員会等と連絡がとられており Neuroscience の総合学会を企画してはという意向もきかれるが, 今後慎重にすすめていきたいという報告があった。本委員会はまだスタートしたばかりであり, 会長を除く植木, 半田両教授にはしばらくの間留任して頂く事になった。

関連学会報告としては, 第 2 回及び第 3 回小児神経外科研究会(松本清及び中村紀夫教授) 第 3 回及び第 4 回脳卒中の外科研究会(佐野圭司及び川淵純一教授) についてそれぞれ報告又は案内が行われ, 又今夏, サンフランシスコで行われた Conference of Neuroradiology についても報告が行なわれた。第 13 回日本定位脳手術研究会についても鈴木二郎教授より次回より本研究会は会員制(会費 2,000 円, 事務局日本大学脳神経外科坪川助教授)となる予定であり, 次回までに楢林教授及び坪川助教授が規約案を作る事になったという報告があった。

その他の報告事項としては植物状態患者救済対策に関する要望書を内閣総理大臣及び厚生大臣に提出する案が東京労災病院長 近藤駿四郎先生より提案され, 会員の賛成が得られ, 議事総会に於ても全員の賛成により学会後速やかに両大臣に原文通りのものを別個に提出することになった。又 10 月 1 日より保険診療点数が改正され, 脳神経外科の手術が Microsurgery の導入に伴い, 心臓外科手術と同じ最高点数になった件について外保連の森安信雄教授より報告, 説明があり, 西本教授よりも発言があった。その他万国外科学会の組織委員として石井, 景山, 佐野, 鈴木, 森安教授, 日本外科学連合基本発起人として, 佐野及び鈴木教授, 日本医学会評議員の連絡員として矢田教授を推薦したことに就て会長より報告があり, 又会長の日本脳神経外科学会の地方会設立に関する提案に関しては既に会則によって地方会の設立は可能であるとの佐野教授の発言があった。

以上の評議員会での審議, 議決事項は 10 月 24 日の議事総会に報告され, 承認された。